

<今回>203回目 2017年1月30(月)15時~18時 1503号室
読書は8冊目「邪馬壹国の論理」79P その他の問題 より

<前回>202回目(17-1-13) 出席者9名

資料 17-01-13-1) 前回のまとめ(清水)

-2)ダイ低湿地論出典(清水)

-3)7月までの日程表

-4)百衲本 三国志跋文読下し文(安藤)

-5)説文解字(安藤)

-6)ヤマイチ国東京都、邪馬台国皇居論の出典(富川)

A 報告

2017年最初の読書会になった。小松さんからのご便り、刀春氏(こうやの宮)の賀状、年末に亡くなられた橋本氏の賀状などを紹介し回覧した。新年会は9名で盛大に行う。

津多家で9名、15730円(2000・5+1500・4)、+270円(繰り入れ)

B 資料 -1)前回まとめの中の2項目、三国志に孫聖臺という人名がある。卑字の中で聖がつかわれている。臺が使われている。文の意図がよくわからないが五世紀の北朝では臺はインフレで後漢書は五世紀の読者を対象にしているから邪馬壹国を邪馬臺国と表記しなおしても不思議ではないという。(これでは壹と臺は同じの論に通じることになる)

-2)ダイ低湿地論は「俾弥呼」の254pに長井啓二さんの関東利根川流域の調査も引用して、紹介されている。-6)に富川さんから多元会報No. 51(2002・9)のコピーを示され、6pに低湿地論、7pに三世紀の7万戸の邪馬壹国は東京都とするなら五世紀の範囲はその事実を知っていたから、邪馬臺国は大国の中枢部として皇居のようなものと解り易く説明に使っている文章を紹介された。これについては年末の会員の皆さんの古田文書のどこに記載されているかとの質問に答えることになったが、本当に①壹国と臺国は呼び名の違いか、②東京都とその中枢部皇居の大きさの違いか。③同じものをさしているのか。議論が続いた。①は史料事実②は解釈の1つ。③は中国史家と通説。(中国では正史三国志は後の通俗三国志の蜀漢正統論に押されて、史実としても後漢書をもとに古代史を解釈することに馴れてしまっているので正史三国志を正当に扱ってきてない。短里説を含めて中国人に正当な評価を訴えたい)-3)は七月までの日程表で以前の配布と少し違っているところがあるので注意してください。-4)前回配布された三国志跋文の読み下し文が安藤氏から示された。日本訪帝室図書寮旧蔵宋本借影(紹熙本の良性を事例を上げて説明している)。富川さんも調べて下さって、読み上げながら個々に補充をされた。

① 海監 張元済の海監は地名である。②楊氏(1871~1927年)は文物収集家。③元本は元時代(モンゴル)の本。④中華学芸社の為に日本に赴き帝室図書寮の旧蔵宋本を撮影して自分の所蔵している衢州本(紹興本)と校本した。諱の例から宋の寧宗の時の刊本と判った。⑤殿本考証疑字と因を同じくするとして、以下例を示している。

ア魏書第14蔣濟伝の劭は(O)とする。イ何悼「説文(髮の友が弟の文字)」を引き凡とする。ウ蜀書第11向朗伝、鎮南將軍は鎮西將軍とする。エ楊洪伝、往都は仕都とする。オ呉書日の日の脱字。カ第4劉繇伝、県民治の民が正。キ土樊伝、卓闕は卓関が正。ク第15周魴伝、の推は惟が正。ケ楊氏の殿本より優れている。太平御覧、冊府元龜、資治通鑑によって異なる字を担合う。南北宋本に及ばず。南北監本毛氏汲古閣本を校号して、紹熙本が最も良い事を知る。

時間が来てしまったので、読書は次回にし、(議)文、衍文、俗字の項は次回しとした。

次回日程 2017 -2-10(金) 15時~18時 601号室

-20(月) 15時~18時 603号室